

「五中お別れ同窓会」 学校長あいさつ

こんにちは。本校の校長の中村 一哉でございます。

本日は、五中の同窓会のために天気予報の流れがかわって…などと、身勝手なことは申しませんが、お蔭さまで、心配された雨にも降られることなく、第三回の府中第五中学校の同窓会が、会場に溢れんばかりの大勢の皆さんのご参加によりまして開催できますことを大変うれしく思っております。ただし、空調設備が不十分で、大変、暑い会場となっておりますことをご容赦ください。

今回の同窓会は、昭和37年の開校以来、本校の教育活動の支えとなっていた北校舎が耐震化に伴って全面改築となることを機会として、「五中校舎お別れ同窓会」と銘打ち開催されるものであります。

本日の会の開催にあたりまして、本校の八代校長の大谷先生、九代校長、藤倉先生をはじめとする旧教職員の皆様には、ご多用のところお越しいただきました。高い席から恐縮ではございますが、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

また、本日の会の開催に向けて、毎週のように集まって検討を重ね、ご準備いただきました、水間会長をはじめとする同窓会役員の皆様、幹事の皆様、実行委員の皆様にも、敬意を表しますと共に、厚く感謝申し上げます。

ここで、少しお時間を頂戴いたしまして、本校の改築の状況ならびに今回の同窓会の意義についてお話させていただきたいと思っております。

はじめに、今回の校舎改築について…でございますが、本校の校舎は、府中市の小学校22校、中学校11校、計33校のうち最も古い三つの校舎の一つでございます。うち一つは、すでに改築を終えた第三中学校です。学校の耐震構造については、学校が非常災害時の避難場所となっていることから、その重要性が問われており、早急に取り組む必要があるということになりました。築48年を経た本校は、改修では間に合わず改築という判断が下され、今年度から耐震改築が始まることとなりました。

本日も、一部で工事が行われておりますが、すでに四月から、校庭の中央部分では仮設校舎の建設が始まっており、8月中旬に完成する予定となっております。その後、夏休み期間中の8月後半には本校舎からの引っ越しをすませ、二学期からは仮設校舎での生活が始まります。その後、9月には北校舎の全面取り壊し、そして、二年間にわたる築造を経て平成24年の8月に新校舎に戻って、二学期から新しい校舎での学校生活が始まる予定です。

この平成24年という年は、中学校では新学習指導要領が完全実施となる年であり、何より、本校が50周年を迎える記念すべき年でもあります。その時点で本校の創立50周年式典が予定されており、その後、さらに約1年間をかけて校庭整地を行うこととなります。従って、すべての校舎改築が完了するの

は平成25年度ということになります。なお、本体育館と特別教室がある東校舎については、建設の時期が北校舎より最近であることから今回は改築は行いません。ただし、東校舎の一部については、耐震補強の必要性があり、現在、8月までの予定で耐震補強工事が行われております。

以上が、校舎改築の概要でございますが、来週23日には住民の方を対象とした新校舎説明会も実施されることとなっており、新しい五中の歴史の1ページがこの度の新校舎の建設とともに始まることを、同窓生の皆さんと一緒に期待したいと思います。

続いて、今回の同窓会の意義についてお話いたします。今日の同窓会には7つの意義があると考えております。まず、企画・内容面での四点です。

はじめに、何と言っても今回の同窓会は、五中での中学時代の貴重な思い出を演出した校舎を、最後に目に焼き付ける機会であるということです。後ほどの校舎巡り際には、思い残すことなく名残を惜しんでいただきたいと思います。

第二としては、卒業生の皆さんが五中に残す在学の証しの一つが、10期から行われている全卒業生による「とびたつの記」の作文ですが、それをこの機会に公開することです。それは、タイムカプセルの開封と同様に、五中で過ごした過去の自分と出会う機会といえるでしょう。

第三に、もしも、この後の総会でご承認が得られれば、今後、「とびたつの記」文庫の管理は同窓会が行うことになるということです。「とびたつの記」についてはこれまで学校が管理・運営してきましたが、この度、公開について協議していた際に、各時期で趣旨や返却について認識の差があることが改めて分かり、異動等で先生方が入れ替わる学校が管理するよりも、同窓会が中心となって管理する方向がよいのではないかとということで検討が進められました。これが実現しますと、これまでの同窓会の歴史にない画期的なことで、学校の教育の一部を同窓会が積極的に担うという、新しい一步を踏み出すこととなります。

第四は、本日のアトラクションとして、卒業生を中心として活躍している府中シンフォニック・アンサンブルと本校の在校生とのコラボレーションによる演奏が実現することです。五中を核として、時代、世代を超えた演奏が行われることに期待しています。この演奏は世代を超えて結ばれた縦糸であり、同窓会自体が、五中をキーワードとして世代をつなぐ太い絆と言えるでしょう。

続いて、今回の同窓会総会の運営・実施面での3つの意義についてです。

五番目の意義として、今回の同窓会の実施にあたっては、携帯電話の掲示板やポスター、ちらし等により公開をアピールしてきました。この総会は何よりも口伝えに広がっていったものです。ふと目にとめたポスターに懐かしさを感じられた方も多いことでしょう。この後、府中界限では夜の部も各期で賑わうとの話を聞いておりますが、新たな人と人とのつながりがこの同窓会を機として生まれつつあることを感じます。

第六に、この府中五中を中心とするこの地域は、府中市の祭礼を中心として

形成された地区とは異なる実態があります。そうした中で、この同窓会を機に新たなコミュニケーション、コミュニティが誕生するのではないかと大きな期待を寄せています。地域の活性化の歩みに足跡を残す、歴史の1ページとなる今回の同窓会ではないかと思えます。

最後の七番目として、この同窓会は2年後に控える本校の「創立50周年式典」の出発点となる機会であるということです。その時には、新校舎の建設とともに半世紀の節目を迎えた本校が、新たなスタートを迎えることでしょう。校舎を懐かしむと同時に、それぞれの五中での思い出を振り返り、もう一度、母校の府中五中に目を向ける場、それが今回の同窓会総会だと思えます。

以上、本日の同窓会総会について、7点の意義についてお話いたしました。本日、ここにお集まりの皆さまは、府中五中という一つの点を中心に描かれた同心円にたとえられるように思います。描かれる輪郭は、それぞれの時代、それぞれの時期で異なりますが、みんなが「府中五中」という一点を目指して、ここにお集まりいただきました。今後もその輪は、木が年輪を重ねるように広がっていくことでしょう。是非、今後とも、府中五中をご支援いただければ幸いです。このような意義ある機会を得て、本校でも、この機会に新たに「学校ボランティア」という制度を立ち上げました。本日、ご案内をお配りしておりますが、同窓生を中心に、是非、五中の教育活動に深くかかわり、支えていただければ幸いと思ひ、お願いを申し上げる次第です。

ここでは、詳しくご説明する時間はございませんので、もしご協力いただけるようでしたら、学校までお問い合わせいただければと思います。

さて、最後になりましたが、本日は、アトラクションの進行を卒業生の金野千代さん（芸名 松本 莉緒さん）をお願いしておりましたが、ドラマの撮影の関係で、残念ながらお出でになれないとのお手紙を頂戴いたしました。その折に、今、会場の前に飾られております見事な花のアレンジメントを贈ってくださいましたので、ご紹介をさせていただきます。松本さんに代表されますように、五中を巣立った皆さんが、社会で活躍しながらも、このように母校に目を向けてくれていることを心強く、そして、頼もしく思っております。

今後も、五中の歴史を皆さんと一緒に作っていくことを約束し、また、同窓生の皆さんの大きなご支援に期待を寄せながら、本日の総会のご挨拶とさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

平成22年6月19日

※ 本内容は当日の挨拶原稿ですので、実際のご挨拶は時間の都合上、内容を一部割合させていただきます。